

第31回 小学館 ノンフィクション大賞

選考委員の交代と 最終選考日程変更のお知らせ

今期より「小学館ノンフィクション大賞」の選考委員を務めていただいたノンフィクション作家の高橋秀実先生が11月13日、逝去されました(享年62)。入院中も最終候補作を熟読しておられた高橋先生のご冥福を衷心よりお祈りいたします。高橋先生のご逝去に伴い、新たな選考委員をジャーナリストの森健先生にお引き受けいただくことになりました。酒井順子先生(エッセイスト)、河合香織先生(ノンフィクション作家)とともに、最終候補作の選考にあたっていただきます。本年12月5日に予定しておりました最終選考会は2025年1月に変更いたします。それに伴い、大賞受賞作は25年2月ごろ、ホームページおよび『週刊ポスト』『女性セブン』誌上で発表することいたします。お電話でのお問い合わせにはお答えできませんのでご了承ください。

選考委員



もり けん
森 健

ジャーナリスト。1968年生まれ。2012年『「つなみ」の子どもたち』で第43回大宅壮一ノンフィクション賞受賞。2015年『小倉昌男 祈りと経営』で第22回小学館ノンフィクション大賞、第48回大宅壮一ノンフィクション賞(2017年)を受賞。2023年『安倍元首相暗殺と統一教会』で第84回文藝春秋読者賞受賞。



さか い じゅん こ
酒井順子

エッセイスト。1966年生まれ。大学卒業後、広告会社勤務を経て執筆業に専念。2003年に発表した『負け犬の遠吠え』はベストセラーとなり、講談社エッセイ賞と婦人公論文藝賞をダブル受賞。女性の生き方、古典、旅、文学など幅広く執筆。『ユーマンの罪』『家族終了』『女人京都』など著書多数。



かわ い か おり
河合香織

ノンフィクション作家。1974年生まれ。神戸市外国語大学卒。2009年『ウスケボーイズ 日本ワインの革命児たち』で小学館ノンフィクション大賞を、2019年『選べなかった命 出生前診断の誤診で生まれた子』で大宅壮一ノンフィクション賞と新潮ドキュメント賞を受賞。『老化は治療できるか』など著書多数。

最終候補作品 (タイトル五十音順)

『近親性交 ― 語られざる家族の闇』

阿部恭子 あべ・きょうこ (NPO法人World Open Heart 理事長、47歳)

『極彩色の牢獄』

宇都宮直子 うつのみや・なおこ (フリーランス記者、47歳)

『親友失格』

小林元喜 こばやし・もとき (ノンフィクション作家、46歳)

『箱根駅伝、敗れざる男、——稀代のランナー 大塚正美の「破天荒」伝説』

飯倉 章 いいくら・あきら (城西国際大学教授、68歳)

『ヒズボラと歪んだ三日月』

伊藤めぐみ いとう・めぐみ (ライター／ディレクター、39歳)